

第2版序文

有効な薬剤がサイトカインしかなかった腎細胞癌に対して 2005 年に初めて分子標的薬 sorafenib の開発治験を始めた際には、経口薬が本当に効くのであろうか、また、予期しない有害事象が出現するのではないかと、期待と不安が入り混じっていたのを思い出します。

そんな中、泌尿器科医が中心となり、この分子標的治療を、安全に、より有用に行うために、他分野の医師、多職種の実業スタッフのチーム YURCC を立ち上げ、手探りの中、分子標的治療を行ってきました。その過程で作成した YURCC のマニュアル「YURCC パッケージ」も 2010 年に一冊の本として出版され、皆様にご活用いただいたことは、大変うれしい事でした。

初版を出版した後、axitinib と pazopanib が使用可能となり、改訂の必要性を感じていましたが、諸方面からのご要請もあり、この度、この 2 薬剤についての増補と、これまでの内容の改訂を行い、ここに第 2 版としてお届けできるのは著者全員の喜びです。

このマニュアルが第 1 版と同様に、腎細胞癌の分子標的治療に携わる皆様のお役にたてば幸いです。

2015 年 11 月

YURCC メンバー一同

(編集) 富田善彦 前山形大学医学部教授

はじめに

チーム YURCC・YURCC パッケージについて

ご存じのように腎細胞癌 (RCC) は分子標的治療のよいターゲットとされており、実際、多くの症例で効果がみられます。しかし、分子標的薬の治療ではこれまでになかったような副作用 (有害事象: AE) が出現し、時として、非常に重篤になります。また、欧米での有害事象とは異なった形で出てくることも少なくないので、使用する側も患者さんも注意しなければなりません。

チーム YURCC は腎細胞癌に対する分子標的治療を安全に行うために、分子標的薬による治療の経験を蓄積・共有し、普遍化することを目的として組織されました。新薬の使用を当たり前の治療にするまで、情報交換や対策を話し合うプラットフォームです。チーム YURCC は 2008 年 12 月から実際の活動を開始しました。実際の活動はもっぱらコア (問題や有害事象の関係するスタッフ) の話し合いとネットベースでの情報提供で行っております。チームの構成は医師、看護師、薬剤師、事務スタッフなど多職種にわたっています。

本書のもとである YURCC で作成した YURCC パッケージは、実際の治療に必要な各種のツールをまとめたもので、すぐに使える、具体的な指示がある、AE については専門医への紹介のタイミングを明らかにする、ことを念頭に作成し、臨床現場で活用してきました。

この度、皆様方のご批評を仰ぐためにも YURCC パッケージを拡充し、出版することにいたしました。本書では、これまでのパッケージ内容をアップデートし、さらに「分子標的治療における AE 対策の解説」、「手足症候群のフットケア・ハンドケア」、「看護基準」、臨床現場ですぐに使える「各種記入用紙」などを加えて、内容を一層充実させ、日常の臨床に役立てていただきやすいように工夫しました。

このパッケージは、今後、現場の経験、情報に合わせて、定期的にアップデートすることを予定しております。アップデートに際しましては、先生方のご経験が貴重な情報となりますので、もし、このパッケージでお気づきの点、また、実際の対応でうまくいかないようなことがありましたら、巻末の「バリエーションシート」にご記載のうえ、お送りいただきたくお願い申し上げます。e-mail でも結構です。どのようなことでもかまいません、簡単にご記載で結構ですので、是非よろしく願いいたします。

なお、このパッケージは YURCC メンバー全員で作成したのですが、看護基準の原案については高橋理佳氏および青山賀子氏、また投与スケジュール・副作用管理シートおよび薬歴管理表についてはそれぞれ志田敏宏氏、青山賀子氏によるものであることを付記します。

本書が先生方の診療に少しでもお役に立ちましたら、YURCC メンバー一同、幸いです。

2010 年 10 月

YURCC メンバー一同

(編集) 富田善彦 山形大学医学部教授